

横查情報月報



2017
9月

横浜市衛生研究所

平成29年9月号 目次

【トピックス】

夏期食品収去検査	1
食品中の動物用医薬品検査結果	3
海水浴場水質調査	5
シックハウスに係る最新の動向 ー国における室内濃度指針値の見直しについてー	7

【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告 8月	8
-------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報	12
---------------------	----

夏期食品収去検査

夏期食品等一斉点検は厚生労働省医薬・生活衛生局生活衛生・食品安全部長から出された「平成29年度食品、添加物等の夏期一斉取締りの実施について」の通知に基づき、夏期に多発する食中毒等食品による事故防止と食品衛生の確保を目的に全国一斉に実施されました。

本市においては平成29年6月1日から8月31日まで夏期取締り期間と定め、一斉点検を行いました。そのうち、食品専門監視班と福祉保健センターによる収去により搬入された検体について、当所が行った食品添加物検査と細菌検査の結果について報告します。

1 食品添加物検査

搬入された199検体(輸入品86検体、国産品113検体)の食品について、野菜類・果実及びその加工品、清涼飲料水などを重点的に、保存料、着色料、甘味料など3,385項目の検査を実施しました(表1)。

その結果、醤油漬(野菜類・果実及びその加工品)1検体から表示にないサッカリンナトリウム(甘味料)を検出し、製造所を所管する自治体が調査したところ、食品表示法違反が確認されました。その他の検体はいずれも食品衛生法及び食品表示法に適合していました。

表1 食品添加物検査結果

平成29年6～8月

大分類	検体数	違反項目数	項目数	検査項目						
				保存料	着色料	甘味料	酸化防止剤	漂白剤	発色剤	品質保持剤
無加熱摂取冷凍食品	1		16		12	2	2			
凍結直前に加熱された加熱後摂取冷凍食品	1		16		12	2	2			
魚介類加工品	8		116	21	84	6		1	4	
肉卵類及びその加工品	10		164	30	124				10	
乳製品	1		4	4						
アイスクリーム類・氷菓	1		2			2				
穀類及びその加工品	8		128	21	96		6			5
野菜類・果実及びその加工品	41	1	565	129	337	81	6	12		
菓子類	31		521	81	339	45	54	2		
清涼飲料水	34		779	306	397	75	1			
酒精飲料	8		164	66	84	6	8			
かん詰・びん詰食品	16		221	46	135	17	17	4	2	
その他の食品	39		689	147	439	74	29			
合 計	199	1	3,385	851	2,059	310	125	19	16	5

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

2 細菌検査

細菌検査の内訳は、清涼飲料水・弁当・そうざいなど168検体498項目(表2)でした。

検査の結果、規格基準^{*1}違反はありませんでしたが、そうざいで細菌数超過の衛生規範^{*2}不適が2検体あり、検査依頼元に報告しました。

^{*1} 規格基準とは、食品及び添加物について食品衛生法第11条により基準、規格を定めたもののことです。

^{*2} 衛生規範とは、弁当、そうざい、漬物、洋生菓子及び生めん類について定められた衛生的な取り扱い等の指針のことです。

表2 細菌検査結果

平成29年6～8月

食品区分	検査 検体数	検査 項目数	違反・不適 検体数	違反・不適理由
魚介類				
生食用鮮魚介類(刺身用切り身等)	9	9		
冷凍食品				
無加熱摂取冷凍食品	1	2		
凍結前加熱加熱後摂取冷凍食品	2	4		
魚介類加工品				
魚肉ねり製品	2	2		
冷凍ゆでがに	2	6		
肉卵類及びその加工品				
食肉製品(ハム・ソーセージ等)	4	10		
ひき肉・サイコロステーキ等	10	60		
乳製品				
ナチュラルチーズ	1	1		
アイスクリーム類・氷菓				
アイスクリーム類	1	2		
穀類及びその加工品				
生めん	14	42		
ゆでめん、むしめん	9	27		
野菜類・果実及びその加工品				
浅漬	8	56		
カットフルーツ	8	16		
清涼飲料水				
清涼飲料水	23	23		
その他の食品				
弁当・そうざい類(加熱処理品)	39	117	1	細菌数超過
弁当・そうざい類(未加熱処理品)	35	121	1	細菌数超過
合 計	168	498	2	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

食品中の動物用医薬品検査結果

当所では、食品中の動物用医薬品検査を行っています。今回は、平成29年4月から7月までに食品専門監視班が収去及び購入した食品の検査結果を報告します。

4月に市内を流通している畜産食品10件(牛の筋肉2件、牛の脂肪2件、豚の筋肉3件及び豚の脂肪3件)について、検査を行いました。その結果、表1に示すとおり全ての項目で不検出でした。

表1 畜産食品中の動物用医薬品の検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果				検出限界
	牛の筋肉 (2件)	牛の脂肪 (2件)	豚の筋肉 (3件)	豚の脂肪 (3件)	
【合成抗菌剤】					
エンロフロキサシン (シプロフロキサシンとの和)	N.D.	-	N.D.	-	0.01
オキシリニック酸	N.D.	-	N.D.	-	0.01
オフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
オルビフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
オルメトプリム	N.D.	-	N.D.	-	0.01
クロビドール	N.D.	-	N.D.	-	0.01
サラフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
ジフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
スルファキノキサリン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
スルファジアジン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
スルファジミジン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
スルファジメキシシン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
スルファドキシシン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
スルファペリジン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
スルファメキサゾール	N.D.	-	N.D.	-	0.01
スルファメキシピリダジン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
スルファメラジン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
スルファモノメキシシン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
ダノフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
チアンフェニコール	N.D.	-	N.D.	-	0.01
トリメトプリム	N.D.	-	N.D.	-	0.01
ナリジクス酸	N.D.	-	N.D.	-	0.01
ノルフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
ピロミド酸	N.D.	-	N.D.	-	0.01
フルメキン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
マルボフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
【内寄生虫用剤】					
イベルメクチン	-	N.D.	-	N.D.	0.005
エブリーノメクチン	-	N.D.	-	N.D.	0.005
モキシデクチン	-	N.D.	-	N.D.	0.005

単位:ppm N.D.:不検出

5月に、市内流通品の収去及びインターネット購入で入手した魚介類9件(さけ目魚類(ギンザケ1件)、すずき目魚類(カンパチ1件及びマダイ1件)、その他の魚類(ヒラメ5件)及び甲殻類(エビ1件))について検査を行いました。また、7月に市内を流通している魚介類10件(うなぎ目魚類(ウナギ2件)、さけ目魚類(サーモン1件)、すずき目魚類(ハマチ1件及びマダイ1件)並びに魚介類加工品及び冷凍食品(ウナギ蒲焼2件、エビ2件及びサーモン1件))について検査を行いました。

これらのうち、ヒラメ1件から抗生物質のオキシテトラサイクリンが0.04ppm検出されました(基準値0.2ppm)。他の食品は表2に示すとおり全ての項目で不検出でした。

表2 魚介類中の動物用医薬品の検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果							検出限界
	うなぎ目 (2件)	さけ目 (2件)	すずき目 (4件)	その他 魚類 (5件)	甲殻類 (1件)	加工品等 (ウナギ) (2件)	加工品等 (その他) (3件)	
【合成抗菌剤】								
マラカイトグリーン	N.D.	-	-	-	-	N.D.	-	0.002
ロイコマラカイトグリーン	N.D.	-	-	-	-	N.D.	-	0.002
ニトロフラントイン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
フラゾリドン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
フラルタドン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
エンロフロキサシン (シプロフロキサシンとの和)	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オキシリニック酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルビフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
クロピドール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
サラフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ジフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファキノキサリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジアジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジミジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジメキシシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファドキシシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファピリジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメキサゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメキシピリダジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメラジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファモノメキシシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ダノフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
チアンフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
トリメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ナリジクス酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ノルフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ピロミド酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
フルメキン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
マルボフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
【抗生物質】								
オキシテトラサイクリン	N.D.	N.D.	N.D.	0.04(1件) N.D.(4件)	N.D.	N.D.	N.D.	0.02
クロルテトラサイクリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.03
テトラサイクリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.02
クロラムフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.0005

単位:ppm N.D.:不検出

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

海水浴場水質調査

金沢区の「海の公園」は、市民に親しまれている横浜市で唯一の海水浴場です。5月及び7月に環境省からの依頼を受けて調査を行った結果を紹介します。

海水浴場水の採水は、健康福祉局生活衛生課が金沢福祉保健センター、環境創造局および公益財団法人横浜市緑の協会の協力を得て行いました。



1 対象施設及び試料

(1) 対象施設: 「海の公園」海水浴場

(2) 採水日: 平成29年5月8日・9日及び7月3日・11日

(3) 試料: 「海の公園」沖3地点で、1日に2回(午前・午後)採水した海水。4日間で計24試料。

2 検査項目

水質評価項目および参考検査項目を表1に示しました。

表1 検査項目

検査担当	水質評価項目	参考検査項目
福祉保健センター	油膜の有無、透明度	水温、気温、透視度、臭気等
衛生研究所	ふん便性大腸菌群数、 化学的酸素要求量(COD)	腸管出血性大腸菌O157、 一般細菌数、pH

3 検査方法

平成29年3月23日付け 環水大水発第1703233号 (環境省水・大気環境局水環境課長通知)「平成29年度水浴に供される公共用水域の水質調査結果の報告について」に基づいて行いました。

4 検査結果と判定区分

水質評価項目と参考検査項目の水質検査結果は表2のとおりでした。5月8日・9日の2日分12試料の検査結果及び7月3日・11日の12試料の検査結果を用い、環境省通知で定められた方法で報告値を算出しました。その報告値を水浴場水質判定基準(表3)によって「適(水質AA、水質A)」、「可(水質B、水質C)」、「不適」の5段階に区分したところ、今年度5月の判定区分は「可(水質B)」、7月は「可(水質C)」でした。なお、昨年度は5月・7月ともに「可(水質B)」でした。

表2 「海の公園」海水浴場の水質検査結果

検査項目	5月		7月	
	8日	9日	3日	11日
油膜の有無	無 ^{*1}	無 ^{*1}	無 ^{*1}	無 ^{*1}
透明度(m)	1.0以上	1.0以上	1.0以上	1.0以上
ふん便性大腸菌群数(個/100mL)	2未満~2	2未満~6	2未満~8	2未満~4
COD(mg/L)	3.5~4.0	2.7~4.5	4.0~9.3	6.8~10
腸管出血性大腸菌O157(/3,000mL)	不検出	—	不検出	—
一般細菌数(cfu/mL) ^{*2}	1~83	2~120	1~37	1~17
pH	8.3~8.4	8.4~8.5	8.6~8.8	8.3~8.4

^{*1} 「認められない」 ^{*2} 参考のため検査しており水質基準はありません

表3 「海の公園」海水浴場の環境省への報告値および水浴場水質判定基準

検査項目	環境省への報告値		水浴場水質判定基準				
	5月 (海水浴場開設前)	7月 (開設中)	適 水質AA	適 水質A	可 水質B	可 水質C	不適
水質判定区分	可 水質B	可 水質C	適 水質AA	適 水質A	可 水質B	可 水質C	不適
油膜の有無	無 *1	無 *1	無 *1	無 *1	無 *2	無 *2	有 *3
透明度(m)	1.0以上~1.0以上	1.0以上~1.0以上	1.0以上	1.0以上	0.5以上	0.5以上	0.5未満
最小~最大(平均)	(1.0以上)	(1.0以上)			1.0未満	1.0未満	
ふん便性大腸菌群数 (個/100mL)	2未満~6	2未満~8	2未満	100以下	400以下	1,000 以下	1,000超
最小~最大(平均)	(2未満)	(3)					
COD(mg/L)	2.7~4.5	4.0~10	2以下	2以下	5以下	8以下	8超
最小~最大(平均)	(3.6)	(7.7)					
腸管出血性大腸菌O157 (/3,000mL)	不検出	不検出	—	—	—	—	—
pH	8.3~8.5	8.3~8.8	—	—	—	—	—
最小~最大							

*1 「認められない」 *2 「常時は認められない」 *3 「常時認められる」

(注) 判定については、水質評価する4項目(油膜の有無、透明度、ふん便性大腸菌群数、COD)を用います。全ての項目が「適(水質AA)」の基準を満たす水浴場の判定は「適(水質AA)」となります。ただし、一つでも満たさない項目があると、その項目の基準を満たす区分が水浴場の判定となります。いずれかの項目が「不適」である水浴場を「不適」とします。

5 赤潮発生時の検査結果

7月は赤潮が発生し遊泳に適さない日が続きました。赤潮時の水質データを得るため4日・6日・10日に「海の公園」沖3地点で、1日に2回(午前・午後)採水し、3日間で計18試料の検査をしました。4日午前のCODは4.6~8.5mg/L、pH8.3~8.4、透明度は1.0m以上でしたが、午後のCODは25~50 mg/L、pH8.8~9.1、透明度は0.3~0.5mになりました。10日にはCOD、透明度の改善傾向がみられました(表4)。

表4 「海の公園」海水浴場の赤潮発生時の水質検査結果

検査項目	7月		
	4日	6日	10日
油膜の有無	無 *1	無 *1	無 *1
透明度(m)	0.3~1.0以上	0.5~0.8	1.0~1.0以上
ふん便性大腸菌群数(個/100mL)	2未満~6	12~46	10~78
COD(mg/L)	4.6~50	20~42	9.1~13
腸管出血性大腸菌O157(/3,000mL)	—	—	—
一般細菌数(cfu/mL) *2	0~16	31~61	22~140
pH	8.3~9.1	8.9~9.3	8.3~8.6

*1 「認められない」 *2 参考のため検査しており水質基準はありません

【 理化学検査研究課 環境化学担当、微生物検査研究課 細菌担当 】

シックハウスに係る最新の動向

— 国における室内濃度指針値の見直しについて —

いわゆる「シックハウス問題」に対応するために、厚生労働省では平成9年から14年までにかけて健康への有害な影響のある13の化学物質について「室内濃度指針値」を設定しました。

しかしながら、最後の指針値設定から10年以上経過していること、また、指針値が設定されている化学物質の使用を避け、代替物質として指針値の定めのない新たな化学物質が使用され、これによる健康影響も懸念されている等の理由から、厚生労働省の「シックハウス(室内空気汚染)問題に関する検討会」において指針値の追加、変更等の見直しが行われています。

今回は、平成29年4月19日に行われた第21回の検討会にて示された新たな指針値の案を紹介します。

表1 追加又は変更が予定される化学物質の指針値案

単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3$

化学物質名	新指針値案	現指針値
キシレン	200 (0.05ppm)	870 (0.20ppm)
エチルベンゼン	58 (0.01ppm)	3,800 (0.88ppm)
フタル酸ジ-n-ブチル	17 (0.0015ppm)	220 (0.02ppm)
フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	100 (0.0063ppm)	120 (0.0076ppm)
2-エチル-1-ヘキサノール	130 (0.02ppm)	—
テキサノール	240 (0.03ppm)	—
TXIB ^{*1}	100 (0.0085ppm)	—

^{*1} 2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタンジオールイソブチレート

新たな指針値は、厚生労働省が毎年実施している室内空気質に係る全国実態調査において、高濃度、高頻度で検出された化学物質を対象として、暴露評価やリスク評価を経て設定されます。新規で指針値が設定される予定の2-エチル-1-ヘキサノール及びTXIBは、過去に本市の公共建築物でも検出された事例があり、2-エチル-1-ヘキサノールについては指針値案の数値を超えて検出されたこともあります。また、他都市においては新築大学校舎における2-エチル-1-ヘキサノールが原因と疑われる大規模なシックビル症候群も発生しています¹⁾。

なお、当所では表1にある化学物質のうちテキサノールを除く6物質については、従前から測定を行っており、新指針値への対応が可能です。また、テキサノールについては、新指針値施行時に検査を正確に行うことができるよう準備を進めています。

1) 森美穂子, 原邦夫, 宮北隆志, 石竹達也. 新築大学校舎の室内空気質と利用者の体調との関連.

日衛誌, 66, 122-128(2011)

【室内濃度指針値とは】

室内濃度指針値とは、その時点での科学的な知見に基づき「一生涯その化学物質について指針値以下の濃度の暴露を受けたとしても、健康への有害な影響を受けないであろうとの判断により設定された値」です。指針値を一時的かつわずかに超えたとしても直ちに健康への有害な影響を生ずるわけではありません。

しかしながら、その化学物質による身体の不調が疑われる場合には、医師等に受診・相談することが望ましいです。

【 理化学検査研究課 環境化学担当 】

横浜市感染症発生動向調査報告 8月

《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が増加しています。
- 手足口病の流行警報が発令中です。
- RSウイルス感染症の報告数が多い状態が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈8月期に報告された全数把握疾患〉

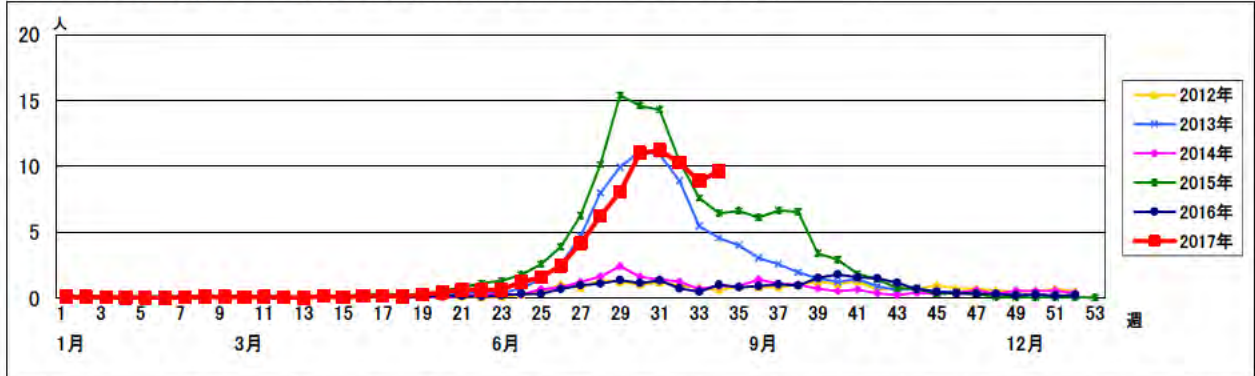
細菌性赤痢	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6件
腸管出血性大腸菌感染症	50件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	3件
デング熱	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
マラリア	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	6件
レジオネラ症	7件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	6件	梅毒	13件
ウイルス性肝炎	1件	破傷風	2件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5件	風しん	1件
急性脳炎	3件	—	—

- 1 細菌性赤痢: *sonnei*(D群)の報告が1件ありました。インドでの経口感染と推定されています。
- 2 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が39件、O26の報告が9件(うち、O157とO26の重複が1件)、O121の報告が1件、O145の報告が1件、O不明の報告が1件ありました。うち、HUSの報告が5件、無症状病原体保有者が12件でした。集団内での発生の報告がありました。
- 3 デング熱: 1件の報告があり、インドでの蚊からの感染と推定されています。
- 4 マラリア: 1件の報告があり、インドでの蚊からの感染と推定されています。
- 5 レジオネラ症: 肺炎型の報告が7件ありました。感染経路等不明です。
- 6 アメーバ赤痢: 6件の腸管アメーバ症の報告がありました。感染経路は、国内での性的接触が2件、国内、タイ、インドネシアでの経口感染がそれぞれ1件ずつ、不詳が1件でした。
- 7 ウイルス性肝炎: B型の報告が1件で、感染経路は同性間性的接触と推定されています。
- 8 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 5件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 9 急性脳炎: 10歳未満の報告が3件あり、1件はリステリア疑い、2件は病原体不明でした。
- 10 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群の報告が3件、B群の報告が2件、G群の報告が1件あり、感染経路等不明でした。
- 11 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 無症状病原体保有者の報告が2件、AIDSの報告が1件あり、いずれも男性でした。感染経路は、同性間の性的接触が2件、感染経路不明が1件でした。
- 12 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 60歳代の報告が1件ありました。
- 13 侵襲性肺炎球菌感染症: 6件の報告があり、うち10歳未満が3件、30歳代が1件、50歳代が1件、80歳代が1件でした。10歳未満は、いずれもワクチン接種歴がありました。
- 14 水痘(入院例に限る): 検査診断例の報告が1件ありました。ワクチン接種歴はありませんでした。
- 15 梅毒: 13件の報告(無症状病原体保有者1件、早期顕症梅毒Ⅰ期8件、早期顕症梅毒Ⅱ期4件)がありました。うち12件は国内での異性間性的接触が推定され、1件は感染地域・経路等不明です。男性11件、女性2件でした。
- 16 破傷風: 2件の報告があり、ワクチン接種歴は不明です。
- 17 風しん: 1件の報告があり、感染地域・経路等不明でした。ワクチン接種歴はありませんでした。

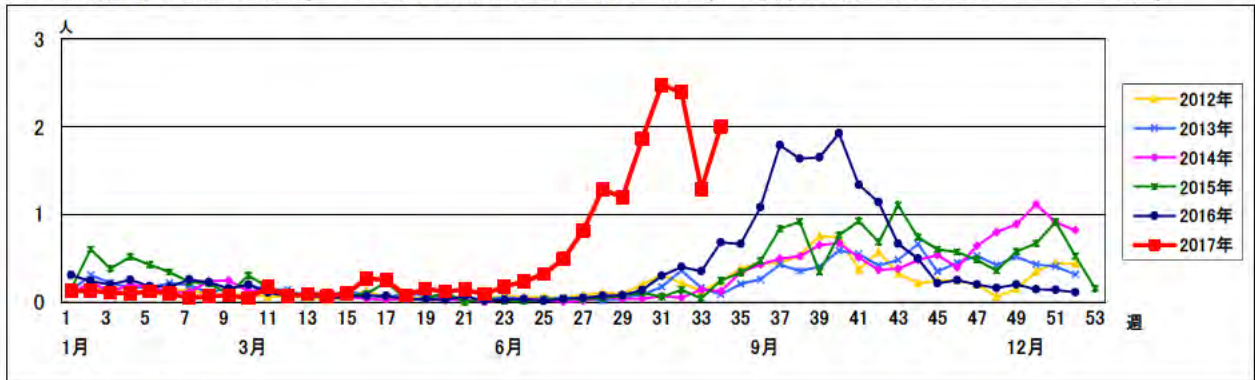
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第30週	7月24日～7月30日
第31週	7月31日～8月6日
第32週	8月7日～8月13日
第33週	8月14日～8月20日
第34週	8月21日～8月27日

1 手足口病:第26週で定点あたり2.45、第27週で4.13と増加し、第28週で6.20となり、警報発令基準値(5.00)を超えました。第31週に11.20となり、その後は横ばいで推移し、第34週では9.63となっています。



2 RSウイルス感染症:例年より早く増加し始め、第31週で2.47となり、観測を開始した2003年以降、市内では最も高値となりました。その後も例年より高い水準で推移し、第34週では2.00となっています。



3 性感染症(7月)

性器クラミジア感染症	男性:19件	女性:19件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:5件	女性:6件
尖圭コンジローマ	男性:9件	女性:3件	淋菌感染症	男性:9件	女性:6件

4 基幹定点週報

	第30週	第31週	第32週	第33週	第34週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.50	0.00	1.00	0.00	0.50
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(7月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件		—

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

8月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点32件、内科定点9件、基幹定点38件で、定点外医療機関からは15件でした。

9月11日現在、表に示した各種ウイルスの分離株3例と遺伝子28例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(8月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	R S 感 染 症	感 染 性 胃 腸 炎	手 足 口 病	ヘル パン ギー ナ	新 生 児 発 熱	無 菌 性 髄 膜炎	ウ ィ ル ス 感 染 疑 い (発 疹)	急 性 脳 炎
アデノ 2型		1								
パラインフルエンザ 1型	1									
パラインフルエンザ 3型	2									
RS			5							1
コクサッキー A6型	1				9	3			1	
コクサッキー A9型		1								
コクサッキー A16型					1					
コクサッキー B5型								1		
パレコ 3型							3			
ノロ GII				1						
合計	4	1 1	5	1	1 9	3	3	1	1	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウィルス担当 】

〈細菌検査〉

8月の「感染性胃腸炎」は腸管出血性大腸菌（O157:H7,VT1&2が6件、O157:H7,VT2が15件、O26:H11,VT1が5件、O26:H-,VT1が2件、O145:H-,VT2が2件）が30件、腸管毒素原性大腸菌（O159:H20が3件、O159:H34が1件、O25:H-が1件、O167:H41が1件、O6:H-が1件）が7件、サルモネラ属菌はO4群が7件でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(8月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	8月			2017年1月～8月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌					2	1
腸管出血性大腸菌		4	26		7	52
腸管毒素原性大腸菌		4	3		5	3
腸管凝集性大腸菌					4	
チフス菌					1	
サルモネラ属菌		5	2		15	5
不検出	1	0	0	6	9	1

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	8月			2017年1月～8月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌			1	9		1
T1						
T4				3		
T6				4		
T12				2		
T B3264			1	3	1	1
型別不能				1		
B群溶血性レンサ球菌		2	1		2	5
G群溶血性レンサ球菌			1		2	3
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						3
バンコマイシン耐性腸球菌						4
レジオネラ属菌			1			5
インフルエンザ菌	1			1	1	4
肺炎球菌			4		5	14
結核菌					20	66
百日咳菌		1			3	
緑膿菌					1	
その他			2		44	22
不検出	0	0	0	2	2	5

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成29年8月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数

平成29年8月の総アクセス数は、101,202件でした。前月に比べ約14%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*163.7%、保健情報10.6%、検査情報月報5.5%、食品衛生3.6%、生活環境衛生2.6%、薬事0.6%でした。

*1 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

8月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は「大麻(マリファナ)について」、2位は「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」、3位は「横浜市感染症情報センタートップページ」でした。1位の「大麻(マリファナ)について」のアクセス件数は、継続的に上位を占めています。また、7位の腸管出血性大腸菌感染症、8位の手足口病、9位のRSウイルス感染症などが流行しており、注意が必要です。

表1 平成29年8月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	大麻(マリファナ)について	5,997
2	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	3,690
3	横浜市感染症情報センタートップページ	3,677
4	衛生研究所トップページ	2,974
5	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	2,629
6	電子パンフレット「MRSAってなあに？」	2,582
7	電子パンフレット「腸管出血性大腸菌感染症 O157に注意しましょう！」	1,730
8	手足口病の発生状況(2017年第31週)	1,519
9	RSウイルス感染症の発生状況(2017年8月10日)	1,167
10	感染症発生状況	1,027

データ提供: 市民局広報課

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/info/marijuana.html>

「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/clostridium1.html>

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

(3) 電子メールによる問い合わせ

平成29年8月の問い合わせは、6件でした(表2)。

表2 平成29年8月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
感染症に気をつけよう！8月号について	1	感染症・疫学情報課
感染症週報PDFのスマホ対応のお願いについて	1	感染症・疫学情報課
疑似コレラについて	1	感染症・疫学情報課
ダニ媒介脳炎について	1	感染症・疫学情報課
転載許諾について	1	感染症・疫学情報課
飲食店の相談について	1	担当区生活衛生課

2 追加・更新記事

平成29年8月に追加・更新した主な記事は、12件でした(表3)。

表3 平成29年8月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
8月 1日	病原体定点からのウイルス検出状況(平成29年)	更新
8月 2日	A型肝炎について	更新
8月 3日	手足口病の発生状況	掲載
8月 4日	感染症に気をつけよう(8月号)	掲載
8月 4日	イスラエルのこどもの定期予防接種について	更新
8月10日	手足口病の発生状況	掲載
8月10日	横浜市RSウイルス感染症情報	掲載
8月14日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(平成29年)【速報版】	更新
8月15日	平成29年 熱中症情報	更新
8月28日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(平成29年)【速報版】	更新
8月30日	平成29年 熱中症情報	更新
8月31日	手足口病の発生状況	掲載

【 感染症・疫学情報課 】